

青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第 35 回全国大会  
第 26 回青少年国際交流全国フォーラム京都大会  
開催要綱

1. 目的

内閣府、地方公共団体等の行う青少年国際交流事業の既参加青年が集まり、地域における事後活動の推進状況を報告するとともに、全国的な事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行い、既参加青年相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献するとともに、国際交流活動を一般の方にも紹介していくことを目的とする。

2. テーマ

『不易流行』～古都の伝統を基軸とした新たな挑戦～

京都には、先人たちが長年かけて培ってきた「心の作法」が残っており、学術、伝統文化・工芸、宗教、芸術の各分野にわたって日本を代表する英知・風土が育まれてきた。

「心の作法」とは、古き良きものを継承しながらも新しいものを受け入れ、その時代時代にあった新しさと面白さを追求したものである。それらは時に、歴史により育まれた伝統が、流行によってその本質を見失ってしまうのではないかという不安やジレンマをも抱える。しかし、そのように育まれた風土は、確実に革新的な組織や活動を育む土壌となり、結果として、1000年続く企業・団体・文化を育てた。

伝統と革新のバランスこそが大事であり、それこそが京都の哲学である。脈々と続く伝統の本質を、その時代に生きる人々の文脈に「翻訳」し直し、新たな価値を生み出しながら継承させている。また京都市は、平成20年より「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちづくりを目指して～」と題し、国際化を推進している。伝統息づく文化を基軸に据え、古都京都の魅力を活かし国際化に向けて進行している新たな挑戦を知ること、時代の変化とグローバル社会を生き抜くための秘訣について考えたい。

本大会では、日本の歴史に深く関係してきた仏教信仰に関して、伝統を重んじながらも、様々なツールを工夫する事で新たなつながりと価値の創造に奮闘されている池口龍法氏から、これまでに実践されてきた取組について御講演いただく。

分科会では、伝統を持つ企業、文化施設、寺社仏閣への訪問や、ものづくり体験をすることで、文化の継承と革新についてより具体的な知識を深められる場とする。これらの活動を通じ、各地域の青少年育成・国際交流・地域貢献活動において継承しなければならない核となる本質を見定めるとともに、今後、時代に合わせた革新をどのように行っていけばよいのかについて考察するきっかけとなることを期待する。

3. 主催

内閣府、日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター  
京都府青年国際交流機構

4. 後援

京都府、京都市（予定）

5. 主管

日本青年国際交流機構 第35回全国大会京都大会実行委員会

6. 期日

2019年8月24日（土）～8月25日（日）

7. 会場

<メイン会場>メルパルク京都（京都府京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13）

8. 対象者

内閣府、地方公共団体等が実施した青少年国際交流事業の既参加者、国際交流に関心がある青少年等

9. 問い合わせ先

京都大会実行委員会：kyoto2019iyeo@outlook.jp

10. 参加費（税込）

■大人（中学生以上）…

全日程（講演会＋分科会＋懇親会＋帰国報告会）：8,000円

1日目のみ（講演会＋分科会）：2,000円

1日目のみ（懇親会のみ）：6,000円

2日目のみ（帰国報告会のみ）：1,000円

■子ども（小学生）…大人の各料金の半額

■乳幼児…無料

※宿泊費は含まれません。各自にて御手配ください。

※分科会によっては、追加で交通費・材料費が必要です。

※定員のある分科会は、定数に達し次第締め切らせていただきます。

## 11. 参加申し込み

詳しくはWEBページを御覧ください。 <https://www.kyoto2019iyeo.com/>

問い合わせ先 京都大会実行委員会 : kyoto2019iyeo@outlook.jp

オンラインフォームからの申込みを基本とします。

フォームの入力が難しい場合は、上記へメールまたは日本青年国際交流機構事務局へお電話ください。

日本青年国際交流機構事務局 tel:03-3249-0767

## 12. 日程

第1日目 8月24日(土)

12:30~13:00 受付

13:00~13:30 開会式

13:30~13:45 記念撮影

13:45~14:45 基調講演

15:00~18:00 分科会

19:00~20:30 懇親会

第2日目 8月25日(日)

9:00 開場

9:30~10:00 日本青年国際交流機構 表彰式

10:00~11:00 帰国報告会

11:00~11:30 閉会式

11:30~ 地域理解研修(オプション)

## 13. 分科会・地域理解研修

### ■分科会

(1) 伝統の再発見 ~グローバル社会だから見えるもの~

- A. お香 松栄堂「記憶の玉手箱を開く香の力」
- B. 和菓子作り「五感を使って味わう 甘い体験」
- C. ふろしき「奥ゆかしく包むコツ ~ふろしき体験~」
- D. 外国人から見た日本(京都)「外国人から見た茶葉と日本文化の世界」
- E. 友禅染「職人の挑戦と技術改革 京友禅」

(2) 伝統の新たな挑戦 ~「現代」と共生するために~

- F. 龍岸寺「新しいお寺のかたち」
- G. 仏像製作体験「伝統と革新 ~蓮華豆皿とガチャ仏さま~」
- H. 伏見酒蔵 月桂冠大倉記念館見学 「豊かな水脈が育むまち伏見」

(3) 伝統と生きる京都 ～これからの地域づくりを考える～

- I. 海上自衛隊「国防と国際交流の今昔」
- J. 京都市「京都におけるSDGsとは？」
- K. 町おこし協力隊「京町家を探索しよう！」

■地域理解研修（オプションル）

- 1. 京つけもの 西利 本店
- 2. 京菓子資料館
- 3. サントリー ビール 京都ブルワリー
- 4. サントリー ウイスキー 山崎蒸溜所

14. 実行委員会

実行委員長	山本 茜	第40回「東南アジア青年の船」事業(2013年度)	京都府向日市
副実行委員長	北浦 暁	一般会員	奈良県奈良市
副実行委員長	鈴木 ちよ	第26回「日本・中国青年親善交流」事業(2004年度)	京都府京都市
事務局・会計	荒田 圭久	第2回「世界青年の船」事業	滋賀県大津市
委員	小田島 陽子	第26回「青年海外派遣」事業(1984年度)	奈良県大和郡山市
委員	松村 由美	第7回「日本・中国青年親善交流」事業(1985年度)	兵庫県神戸市
委員	早川 理恵子	第21回「青年の船」事業(1987年度)	京都府京都市
委員	中畷 健太	第12回「日本・韓国青年親善交流」事業(1998年度)	兵庫県神戸市
委員	寺西 由佳	第13回「世界青年の船」事業(2000年度)	滋賀県東近江市
委員	芦口 正史	第8回「国際青年育成交流」事業(2001年度)	和歌山県上富田町
委員	永松 仁	第15回「日本・韓国青年親善交流」事業(2001年度)	大阪府大阪市
委員	岩井 美紀江	第14回「世界青年の船」事業(2001年度)	大阪府堺市
委員	野田 夏帆	第20回「世界青年の船」事業(2007年度)	大阪府大阪市
委員	小川 良子	第37回「東南アジア青年の船」事業(2010年度)	兵庫県上郡町
委員	長谷部 花観	第21回「国際青年育成交流」事業(2014年度)	奈良県橿原市
委員	赤木 一成	ローカルボランティア	京都府京都市
委員	吉村 典子	ローカルボランティア	兵庫県西宮市

<< 開催案内詳細 >>

## ■基調講演

### 【講演テーマ】

伝統とは絶えざる革新なり

国際化を進めていく上で自国の持つ文化的背景を深く理解し、自身のアイデンティティとしての文化的な基盤を持つことが求められている。仏教は、日本の歴史において、神道と融合（神仏融合）の一途をたどったものの、再び分離した歴史を持ち、その風習や習慣、儀礼の行事も地域によりばらつきがある。核家族化や地域社会との人間関係が希薄になりつつある現代において、仏教信仰はわかりにくく敬遠される対象となってきた。仏教という日本の伝統的宗教について、国際化の流れに伴い訪日外国人が増加する中で、造詣がないためにその説明に苦慮する若者も数多く存在する。池口氏は、この点を課題とし、これから生きる若い世代に日本の歴史に深く関係してきた仏教思想をいかに身近に感じてもらうかについて考え、いくつかの提案を示している先駆者である。

池口氏は、仏教が持つイメージを現代の文脈に即した形で伝えるため、様々な団体とコラボレーションをしたフェスの開催や、お寺をテーマにしたアイドルグループのプロデュース、3Dプリンターやドローンといった最先端技術を取り入れたイベント等を次々と考案・実践し、新たなコミュニティを創造することで、メディアを含め世間の注目を集めている。その活動は、新奇的であるためときに批判の対象となるが、これまで寺に足を向けることのなかった多くの若者や外国人を呼び寄せることに成功している。

「不易流行」とは、本質をしっかりと捉えつつ、時代に合わせて変化させていくことであり、今後の日本社会においても必要不可欠なものである。国際社会が身近となった現在だからこそ、新たな国際的視野の拡大と、人と人とが時間的・空間的につながることへの新たな価値の付与が必要とされる。この講演を通じ、国際社会はもとより地域社会や職域などにおいても、次代を担うにふさわしい行動の伴った青年の育成を可能にし、更なる発展を目指すための糸口を学べると考える。

### 【講師プロフィール】

浄土宗龍岸寺 住職 池口 龍法 氏

1980年9月7日兵庫県生まれ。兵庫県尼崎市西明寺に生まれ育ち、京都大学、同大学院ではインドおよびチベットの仏教学を研究。大学院中退後、2005年4月より知恩院に奉職し、現在は編集主幹をつとめる。2009年「フリースタイルな僧侶たち」代表に就任し、フリーマガジンの発行など仏教と出会う縁の創出に取り組む（～2015年3月）。2014年6月より京都市下京区龍岸寺住職として、念仏フェス「十夜祭」「超十夜祭」や浄土系アイドル「てら＊ぱるむす」運営などに携わる。著書に『お寺に行こう！坊主が選んだ「寺」の処方箋』（講談社）、共著に『ともに生きる仏教 お寺の社会活動最前線』（ちくま新書）がある。

## ■分科会

(1) 伝統の再発見 ～グローバル社会だから見えるもの～

### A. お香 松栄堂「記憶の玉手箱を開く香の力」

場所：香老舗 松栄堂 薫習館 <http://www.kunjyukan.jp/>

参加費：2,160円（+交通費 520円）

定員：20名

香りは人の記憶を呼び覚まし、感情を揺さぶるもの。6世紀に大陸から伝えられたお香は、時代を経て、人々の暮らしにより身近なものへと変化してきました。京都で315年以上の歴史を持つ松栄堂。創業以来、お香づくり一筋に歩み、日本人の暮らしに合った新しい香りの開発を行っています。分科会では、匂い香づくりやお香のお話だけではなく、昨年完成したばかりの薫習館の見学ツアーも行います。日本人では気に留める人も少なくなった懐かしい日本特有の優しい香りを、日本滞在の記憶を呼び覚ますお土産とする外国人も増えているようです。日本の伝統的な香りの魅力と楽しみ方を、再発見してみませんか。

### B. 和菓子作り「五感を使って味わう 甘い体験」

場所：茶房一倫 <http://ichirin.capoo.jp>

参加費：1,500円（+交通費 460円）

定員：15名

和菓子の起源は日本書紀、古事記の時代にまで遡ります。目で色形を、舌で食感と味を、鼻で香を、耳で菓子の銘（名前）を聞いて味わう和菓子は、季節感を重んじて作られます。和菓子は、季節感を花や景色、動物などで表現した食の芸術作品として、海外からも注目を集めています。京都生まれ、京都市の藤田倫子氏は、餡にこだわり、男性の職人が多いと思われがちな和菓子の世界において女性ならではの感性で果敢に創作和菓子に挑戦しています。藤田倫子氏の「茶房一倫」を訪れ、餡に始まり餡に終わる和菓子の世界の奥深さを学びます。日本文化ならではの菓子作りを体験し、五感を使った伝統的な季節の味わい方を再発見してみませんか。お抹茶、お土産の和菓子もつきます！

### C. ふろしき「奥ゆかしく包むコツ ～ふろしき体験～」

場所：メルパルク京都

参加費：1,500円

定員：20名

包むものの大小・形状にとらわれることなく、変幻自在に包むことができ、必要のない時には畳んで小さくなり軽量であること等の特徴から、ふろしきの融通性・自在性が環境問題への貢献と共に見直されています。しかし、道具として極めてシンプルであるため、使うものの知恵と技術水準が問われ、自在に包む技を身につけることが必要となります。日本のおもてなし文化の一つであるふろしき包みを身につけ、おもてなしを海外へ広げませんか。

D. 外国人から見た日本(京都) 「外国人から見た茶葉と日本文化の世界」

場所：○間-MA- <https://Oma.jp/>

参加費：3,000 円（+交通費 300 円）

定員：15 名

東寺近くの、京町家を斬新に改築した「○間-MA-」。日本全国からセレクトした希少な日本茶、和紅茶、和烏龍茶等の茶葉を取り扱い、日本産茶葉と日本文化を広めることを目的とした個性的なカフェ&ギャラリーです。「○間-MA-」で、Japanese Tea Master として活躍するベルギー人の Tyas Sosen 氏。武道を通じて日本を知り、留学をきっかけに来日した彼は、日本茶葉の素晴らしさに気付き、日本茶を世界へ広げる活動を行っています。お茶との出会い、外国人から見た日本文化についてのお話を聞きながら、身近にあるからこそ気付けない日本に出会ってみませんか。

E. 友禅染「職人の挑戦と技術改革 京友禅」

場所：古代友禅株式会社 <http://www.kodaiyuzen.co.jp>

参加費：(1) 風呂敷 (大) 2,160 円 (2) ハンカチ 1,250 円（+交通費 460 円）

定員：各 30 名

古くから伝わる染色技法を、17 世紀後半に扇絵師 宮崎友禅齋が集大成したことから名づけられた「友禅染」。人物や花鳥などの繊細な文様を鮮やかに表現するその技術とデザインは、京都から日本各地に広がりました。その文様は、海外でも和柄として知られています。高度な技法を受け継ぐ手描友禅と、明治初期に創案された型友禅。型友禅の出現により大量生産が可能となった事で、友禅は庶民のものとなり、和装染色にゆるぎない地位を確立しました。伝統で培われた友禅染の技術を用い、型友禅のオリジナル作品を制作してみませんか。

(2) 伝統の新たな挑戦 ～「現代」と共生するために～

F. 龍岸寺「新しいお寺のかたち」

場所：龍岸寺

参加費：無料（徒歩移動 約 10 分）

定員：30 名

元和 2 年（1616 年）に僧三哲（安井算哲/源蓮社長 譽三哲和尚）によって開かれた浄土宗の寺院である龍岸寺。大乘仏教は、あらゆる人々が手を取り合って、個人の心の平穏、家庭の安心、社会の平和を築いて行くための教えであり、第 24 世池口龍法住職は、お寺が様々な縁の結び目として、多くの人々から慕われるようにと、定期的なイベントを企画し、地域の人々や観光客との交流にも積極的に取り組まれています。基調講演でもお話いただいた新しいお寺のかたちを実際に見に行ってみませんか。

### G. 仏像製作体験「伝統と革新 ～蓮華豆皿とガチャ仏さま～」

場所：メルパルク京都

参加費：4,500円

定員：15名

全国のお寺の仏像修復や製作を行いつつ、仏像彫刻教室も主宰する、仏師三浦耀山氏。伝統的な手彫りを行う傍ら、「人々が仏様に親しみを持ってくれる機会を、少しでも増やしていきたい」との思いから、新たな試みとして3Dプリンターによる仏像の複製やガチャ仏さまなどを手掛けられています。また、龍岸寺 池口住職と共にドローンで仏像を飛ばす演出を行い、現代のテクノロジーを駆使した多様な挑戦を続けています。伝統的な仏具作成体験として、3Dプリンターで作成した仏像（ガチャ仏さま）を載せる木彫りの蓮華豆皿を製作します。進化を続ける仏像製作の最前線をのぞきましょう。

### H. 伏見酒蔵 月桂冠大倉記念館見学 「豊かな水脈が育むまち伏見」

場所：月桂冠大倉記念館

参加費：400円（純米吟醸酒のお土産と、純米大吟醸八ツ橋の購入特典あり）（+交通費 520円）

定員：25名

万葉の時代より歴史・文化の要所でもある伏見は、かつて“伏水”と記されていたように、古くから豊かで質の高い伏流水をもち、酒造のまちとしても栄えてきました。創業寛永14年（1637年）の月桂冠は、明治42年に日本で初めて自社に研究所をおき、酒造りに科学技術を導入し、現在にいたるまで常に「日本酒のあたりまえ」に新たな可能性を探り、時流に即した日本酒の新しい価値を生み出すべく第一線で挑戦を続けています。永年に渡り伏見で培ってきた醸造技術と共に、歴史的風土を生かしながら世界へ向けて新たな酒文化を発信し続ける酒造の核心を見に行きます。また、坂本龍馬襲撃事件で有名な「寺田屋」、「鳥羽伏見の戦」縁の地であり、伏見七名水の一つ「石井の御香水」が湧き出る「御香宮神社」などを訪れ、歴史文化溢れる地を歩きながら探索してみましょう。

### （3）伝統と生きる京都～これからの地域づくりを考える～

#### I. 海上自衛隊「国防と国際交流の今昔」

場所：メルパルク京都

参加費：無料

定員：60名

インド太平洋構想もあり日本の自衛隊が世界の海の安全保障の中で果たす役割は大きくなっています。また、途上国での人道支援やRIMPACといった国際安全保障の中で、自衛隊の活躍が期待されています。さらに、他国と行なう合同演習や支援を通じ、国家間の親善が展開されています。国防における国際交流の今昔。京都は歴史的に見ても日本海と太平洋を結ぶ安全保障上重要な場所です。元在米大使館の防衛駐在官、海上自衛隊舞鶴地方総監部幕僚長 関口雄輝氏にお越しいただき、国防と国際交流の歴史について、現状を踏まえてお話しいたします。



## J. 京都市「京都におけるSDGsとは？」

場所：メルパルク京都

参加費：1,000円

定員：60名

「全国市区・持続可能度・SDGs先進度調査」（日本経済新聞社）において、全国815市区より第1位に輝いた京都市。京都市では、SDGsを地方創生に資するものと捉え、京都のまちの様々な課題の解決を「ひとごと」とはせず、「自分ごと」「みんなごと」として、市民・行政が協働する“みんなごと”のまちづくりを実施しています。京都で千年続く祇園祭がこれほどまでに大きく、長く続く祭りとして発展した背景にも、SDGsの理念に通じるものがあると考えられます。なぜSDGsが私たちの社会に必要で、どのような変化や可能性をもたらすのかといった、SDGsの本質についてSDGsカードゲームを通じて、楽しみながら学びます。

## K. 町おこし協力隊「京町家を探そう！」

場所：上京区の京町家

参加費用：500円（+交通費460円）

定員：20名

伝統的な産業の集約地として文化を発信し、発展してきた上京区。その地で、マンション建設で取り壊されようとしていた町家を買取り、京町家の保存に尽力されている古武博司氏。江戸時代に西陣帯問屋として建築され、大正時代に再建された「西陣の町家・古武」では、粋で贅を尽くした京都の美意識を見ることができます。1200年の知恵が凝縮された京町家は、保存のために市民団体をつなげ、宿泊施設・カフェ・ミーティングスペース等へ再生されています。そんな町家の原点を訪問し、探検してみませんか。町家ガイドも務める古武氏より京都・町家の歴史やその魅力、課題などについて学び、未来について考えます。

### ■地域理解研修（オプションル）

#### 1. 京つけもの 西利 本店

場所：JR京都駅より徒歩約10分

参加費用：無料

定員：30名

解散予定時刻：14時30分頃

2013年「和食～日本人の伝統的な食文化～」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。「和食」の4つの特徴として、(1)多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、(2)健康的な食生活を支える栄養バランス、(3)自然の美しさや季節の移ろいの表現、(4)正月などの年中行事との密接な関わり があげられます。今回訪問する西利もまた、この和食に生きる豊かな素材と旬のこころを生かし、体に優しく、そして日本の風土に寄り添う漬物づくりを目指しています。様々な工夫の元、変化を重ねる漬物を味わいに行きましょう。

## 2. 京菓子資料館

場所：京都市営地下鉄 今出川駅から徒歩約3分

参加費用：無料（+交通費 京都市営地下鉄 京都駅～今出川駅 片道260円）

定員：30名

解散予定時刻：15時頃

和菓子に関する資料、糖芸菓子および道具類の展示を見学します。京都に息づく和菓子の文化や技術について、実際の道具等を見ながら、じっくり学ぶことのできる施設です。希望者は、京菓子の老舗「俵屋吉富」にてお買い物も可能。また、京菓子資料館の見学後は、無料で見学できる近隣の相国寺や同志社大学 寒梅館などを訪れます。 ※有料拝観を希望される方は、解散後にお願いいたします。

## 3. サントリー ビール 京都ブルワリー

場所：JR長岡京駅から徒歩約25分（13時15分 JR長岡京駅発の無料シャトルバスに乗車予定）

参加費用：無料（+交通費 JR京都駅～JR長岡京駅 片道220円）

定員：25名

解散予定時刻：15時30分頃

サントリーは、「水と生きる」をキーワードに、地球にとって貴重な水を守り、水を育む環境を守るとともに、社会に潤いを与え続ける企業を目指し、新たな価値の創造に挑戦しています。また、従来取り組んできたCSRにSDGsをふまえる事で、グローバル企業としての取組を深化させています。京都ブルワリーでは、良質な天然水によって作られたビールを体感します。

## 4. サントリー ウイスキー 山崎蒸溜所

場所：JR山崎駅から徒歩約10分

参加費用：無料（+交通費 JR京都駅～JR山崎駅 片道220円）

定員：25名

解散予定時刻：15時頃

今から95年以上前、サントリーの創業者 鳥井信治郎の「日本人の繊細な味覚にあった、日本のウイスキーをつくりたい」との思いから始まった日本のウイスキーづくりは、山崎の地から始まりました。2003年には、山崎蒸溜所で生み出されたシングルモルトウイスキー「山崎12年」が、ジャパニーズウイスキーとして初めて世界でも権威ある酒類コンペティションで金賞を獲得し、その後、ジャパニーズウイスキーは数々の受賞を果たし、世界でも認められるものとなりました。この地域理解研修では、山崎蒸溜所を訪れ、ジャパニーズウイスキーの歴史や挑戦を、五感を使って知る機会とします。